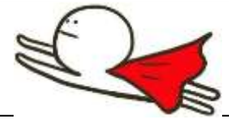
変わらない正義とアンパンマン



アンパンマンといえば、小さな子どもたちに大人気のアニメですが、みなさんも、小さい頃に絵本やテレビで見たことがあるのではないでしょうか？アンパンマンのアニメが始まった時、私はすでに大人だったのですが、一度だけアンパンマンのアニメを見て泣いたことがあります。

当時は保健室の先生として働き始めて間もない頃で、一人暮らしをしていました。朝早く出勤し、夜は疲れてまっすぐ家に帰り、ご飯を食べて寝るだけの毎日。勤務していた学校には約 1000 人の子どもたちがいるのに、保健室の先生は私一人・・・。仕事も多く、また精神的にもかなり負担の多い毎日でした。そんなある日、部屋でぼんやりとテレビをつけると、アンパンマンのアニメが放送されていました。いつもなら他の番組に変えるのに、その日はそれさえ面倒で、そのまま見続けていたのです。詳しい内容は覚えていませんが、心が凍りついて、皆を困らせている相手の心を変えるために、メロンパンナちゃんが何度も何度もメロメロパ～ンチ！メロメロパ～ンチとくりかえしていました。でも相手は変わらず、メロンパンナちゃんを振り払って地面に叩きつけます。それでもメロンパンナちゃんが諦めず、フラフラになりながらメロメロパンチを続けている姿を見ていたら、急に涙があふれて止まらなくなったのです。

その涙が何だったのかは、今でもわかりません。ただ保健室の先生というのは、自分ががんばったことが、目に見える成果として現れる仕事ではありません。または、だれかのためにと思ってやっていたことが、無駄になったように見えたり、時には批判を受けたりすることもある仕事です。今振り返ると、誰かのために自分を犠牲にして頑張る姿――迷惑をかけられて困っている人を助けたいというだけでなく、暴れて周囲に迷惑をかけている相手のことさえも放っておけずに、必死にメロメロパンチを繰り返していたメロンパンナちゃんの姿に、自分を重ねていたのかもしれません。

さて、アンパンマンの作家のやなせたかし先生は、戦争を経験して、正義は簡単にひっくり返る（正しいと思われていたことも、その時によって変わってしまったり、立場が変われば悪になる）ことを目の当たりにし、本当の正義とは何かを考え続けました。その結果たどりついた答えが「本当の正義というのは、相手をやっつけるということではないんだよ。

そこにひもじい（おなかがすいている）人がいれば一切れのパンをあげる、そこにおぼれそうな人がいれば助けてあげるということ。（中略）決して強くはない人が、自分が傷つくことも覚悟して、それでもやらずにはいられない、それこそが正義だと思う。AERA　2013 年 7 月 29 日号」であり、そこから生まれたのがアンパンマンでした。

ただ、今の社会では「厳しい罰を与えることで、悪い行動を変えさせるべき」という考え方が強くなっているように感じます。だから「メロンパンナちゃんのように、やさしいメロメロパンチで相手の心を変えることで、悪い行動を変えようとする方法は、「甘すぎる」とか「コスパが悪い」と言われて、笑われてしまうかもしれません。

また、お腹がすいている人に自分の顔を分けてあげるというアンパンマンの行動も、今の社会ではいろいろと言われてしまうかもしれません。「あんぱんは好きじゃないから、他のものがよかった」「つぶあんじゃなくて、こしあんがよかった」「顔なんて汚くて食べられない」「あんぱんよりもお金がほしい」「勝手にうちの子にあんぱんを食べさせないでほしい」など、クレームを言われる可能性もあります。もしかしたら、「アンパンマンの顔を食べさせていいかどうか、事前に保護者の同意書をとってください」といった手続きが必要になるかもしれません。でも、目の前にお腹をすかせた子どもがいたとしても、同意書がないから「ごめんね、君にはあげられないんだ」と言わなければならないような世界では、アンパンマンは本当の意味で生きられないのではないでしょうか。

アンパンマンの世界は、基本的に無償のやさしさで成り立っています。アンパンマンは、自分の顔をあげることでお金をもらおうとしたり、感謝されたりお礼を期待したりといった見返りを求めてはいません。お腹がすいていれば、いたずらばかりしているバイキンマンにだって、自分の顔をあげるのです。一方、アンパンマンに助けてもらった人たちは、大人も子どもも、あんぱんの味に文句を言ったり、クレームを言ったりしません。そこには、安全とやさしさ、そして感謝の気もちがあふれているので、みんなが安心して暮らせるのです。

ではアンパンマンは、面倒なことが多い今の社会では生きられないのでしょうか？いいえ。アンパンマンは、やなせ先生が探し求めていたひっくり返らない正義そのものなので、世の中の価値観が変わっても、たとえ生きづらい世の中になっても、おなかがすいた人に、自分の顔を上げ続けるでしょう。

むしろ、「生きている意味がわからない」「もう消えてしまいたい」といった言葉が、あふれている今の社会だからこそ、アンパンマンのマーチの歌詞にある「何のために生まれて、何をして生きるのか」という疑問を自分に問い続けることや、見えない未来の不安ばかりを想像するのではなく「今を生きること」が求められているように思うのです。

もちろん、現実の世界では、バイキンマンのようにアンパンマンに意地悪をしたり、攻撃してきたりする人もいます。そして、最初にお話ししたメロンパンナちゃんのように、誰かのために自分を犠牲にして一生懸命がんばっても、その思いが届かないこともあります。それでも、ジャムおじさんやバタコさんのように、困った時に助けてくれる、支えてくれる人がいれば、たとえ胸の傷が痛んでも、また立ち上がって頑張ることができると思うのです。

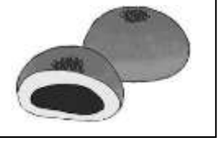
やなせ先生がたどり着いた「正義」は、「（パンをひと切れ）あげること」や「（困っている人を）助けてあげること」でした。でも今の時代は、「ただで（お金も払わず努力もしないで）もらうこと」や「やさしくしてもらうこと」「自分の思い通りに動いてもらうこと」「気をつかってもらうこと」など、「してもらうこと」ばかりを求めているように感じます。

でも、「もらえるのが当たり前」になると、今度は「もらえないこと」「してもらえないこと」ばかりが気になって、いくら「もらっても」満足できなくなってしまいます。

そうした気もちはやがて、「お腹がすいて仕方がない」時のような心の空しさや、「自分だけがつらい」「自分だけが損をしている」といった被害者意識、そして「自分はひとりぼっちだ」という孤独感に変わり、時には本当に「死にたい」と感じるほどの苦しさにつながってしまうこともあります。

万が一、あなたが「死にたいくらいつらい　苦しい」と感じた時には、誰かに助けを求めてみましょう。アンパンマンの世界では、「おなかがすいたよ～」と泣いていると、アンパンマンが飛んできてくれるように、まずは自分から声をあげることが大切なのです。

もちろん、「助けて」と声に出すだけで、すぐに問題が解決するわけではありません。助けに来てくれた人が、自分の望むものを与えてくれるとは限らないし、つらさそのものが消えるわけでもありません。でも、助けを求めることで、あなたが立ち上がるための「あんぱん」、次に進むためのエネルギーをもらうことができるかもしれません。



この機会に「アンパンマンのマーチ」を聴いてみませんか？

小さい時に聞いたり歌ったりした時とは違う、何か新しい気づきがあるかもしれません。